

## 第 四 章 総訓生の職業興味について

第一章、第二章において、総訓生の素質の実態を知能検査および職業適性検査を通して明らかにしてきた。

この素質を生かす重要な要因の一つとして、職業興味をとりあげる。

その理由は、ある総訓生が適性からみて職業遂行をする可能性があつたとしてもその職業に興味・関心を示さなければ、訓練効果はあがらないであろうし、職業生活での適応も期待できないだろう。また、ある一定の知能水準以上であれば、職務に対する興味が職業生活での成功に大きな影響をあたえるとも考えられている。

このような意味で、総訓生の職業興味の実態を明らかにしようとするものである。考察の仮説は43年度と同様であり、次のごとくである。

職業訓練を受けるものが、その職種にふさわしい職業興味を有していなければならぬこととして、現在の総訓生についていえば、

第1に、興味の方向において、「機械的領域」に興味をしめしていることがのぞましい。

第2に、職業興味の型は、じつくり考えることよりは、手足を動かすことに興味をもっていること。

第3に、職業興味が訓練職種にそうとうする水準であつてほしい。

以上の3点が総訓生において、どのような状況になつているか、その実態を43年との比較において明らかにした。<sup>※</sup>

### 第1節 総訓生全体の職業興味について

総訓生全員の職業興味プロフィールで特徴的な点は興味領域における「機械的領域」の値が高いことである。それに対して「対人的・社会的領域」の値が若干低いことである。

#### 1-a 訓練校別の傾向

各訓練校ごとの職業興味パーセンタイルを示したのが、第20表である。この表が示すごとく、それぞれの訓練校はほとんど同様な職業興味プロフィールを

---

※調査方法の詳細については調査研究部報告書第15号P25を参照

描いている。

その中で、総訓「15」は訓練校全体の職業興味プロフィールの傾向を最も顕著に示している。つまり「対人的領域」で30パーセントで興味が低く、「機械的領域」で80パーセントで興味が高くなっている。

#### 1-b 職種別の傾向

訓練職種別にみた職業興味の傾向は第21表のごとくである。

機械的領域では、「機械科」が80パーセント（以後80pと示す）で高い値を示し、ついで「仕上」「精密機械」「自動車整備」「織機調整」「配管」などが70pである。

低い値を示す職種は「塗装」で40pである。技能型では、「製図」が60pで最も高く、「電子」「機械」「織機調整」「第2自動車整備」「電工」などが50pである。最も低い値は「鋳物」「塗装」「ブロック」「銅器」「建築」で30pである。

以上のように、訓練職種によつて職業興味の傾向が若干異なるが、訓練職種ごとの独特の職業興味傾向にあるとは認められない。 ※

#### 1-c 中卒訓練生と高卒訓練生との職業興味の比較

第6図は中卒訓練生と高卒訓練生とを比較した職業興味のプロフィールである。

中卒訓練生の職業興味が「自然的」「機械」領域で高卒訓練生の値よりも高くなっているのは注目に値する。

職業興味の型では、中卒訓練生は「技能的」「計算的」型で高卒訓練生よりも低い値を示している。

さらに、職業興味の水準では、高卒訓練生が60pで中卒訓練生より20パーセント高い値を示している。

要約すれば、中卒訓練生は機械操作、テレビ修理の仕事やきまりきつた仕事に関する「機械的領域」に高い興味を示す点で特徴がある。

また、高卒訓練生は職業興味の水準が高い点に特徴があるといえる。

---

※ 訓練1年次には職業興味は職種ごとに固定してないが、訓練課程が進むにしたがつて、職種ごとの職業興味型が金属系職種と非金属系職種とに大きく分かれてくると推測される。これについては、現在調査を継続中である。

知能偏差値の高い高卒訓練生が職業興味水準で高い値を示すのは当然ともいえるが、現状の訓練校における職種内容が、高卒訓練生の職業興味水準とマッチするかどうか十分に吟味する必要がある。

## 第2節 職業興味検査からみた

### 「職業訓練への不適応が予測される訓練生数について」

第1節では総訓生全体の職業興味の傾向を明らかにした。その全体傾向と著しく異なつた傾向を示す総訓生は、訓練場面や職場における適応に困難をきたすと予測される。

実際には、訓練成績、職務実績と相関をみて、結論づけねばならないが、ここでは、43年と同様に仮説として、中卒訓練生についてのみ、その実態をまとめることにする。

#### 2-a 中卒訓練生全体の傾向

中卒訓練生の職業興味パーセンタイル段階ごとの分布は第22表のごとくである。

これは、訓練において必要と仮定した「機械的領域」「技能的型」「興味水準」、いづれにおいても、43年とほぼ同様の傾向を示している。

「機械的領域」では、80p以上の者が48.7%であることから、総訓生の半数が職業興味の領域において、訓練職種と一致しており、問題がないといえる。それに反して、30p以下の者が13.4%であり、この総訓生は自己の職業興味が職種の性格とあわないわけであるから、訓練への適応が困難であろうと思われる。

「技能的型」では、30p以下の者が33.9%であり、また20p以下の者が22.2%である。

これらの総訓生は現状の訓練職種の仕事よりも、言語的な仕事、計算的な仕事に関心をもっていると思われるので、これも問題である。

「職業興味的水準」では、30p以下の者が42.0%、20p以下の者が22.2%で職業興味的水準があまりにも低くおかれているので、疑問である。

このように、総訓生のうち、約20%が職業興味が職業訓練の性格と一致し

ていないので問題があらうと思われる。

## 2-b 訓練校別の傾向

以上のような職業興味の傾向を訓練校別に、パーセンタイル度数分布で示したのが第23表である。

第23表の機械的領域でみると、

30p以下の適応が困難と予測される総訓生の率が高いのは「06」および「01」「09」「12」である。逆に「15」および「02」「03」「04」は、職業興味の領域で職種と一致している訓練生が若干多いのである。<sup>※</sup>

つぎに、職業興味の水準をみると、20p以下の者の多い訓練校は、総訓「04」、総訓「07」である。

この興味の水準は、知能との関連でみなければならぬので、一概によいわるいは断言できない。

以上のように、自己の職業興味の水準と訓練職種とが一致しないと予測される総訓生の人数は、訓練校により若干の相違が認められる。

この実態は43年調査とほぼ同様である。

要約すれば、職業訓練の職種性格とあわない職業興味をもっている総訓生が約20%入校していると予測される。

この結果を基礎にして、今後追跡調査を行なえば、個人にとって職業興味の職業生活への適応要因としての役割や、職業訓練でどのように職業興味を発達させるべきか、などを明らかにする手がかりができるであらう。

---

※なぜ、訓練校によつて職業興味の一致する者の率が異なるか、他の検査や個人面接によつてその原因を追求すべきであらう。

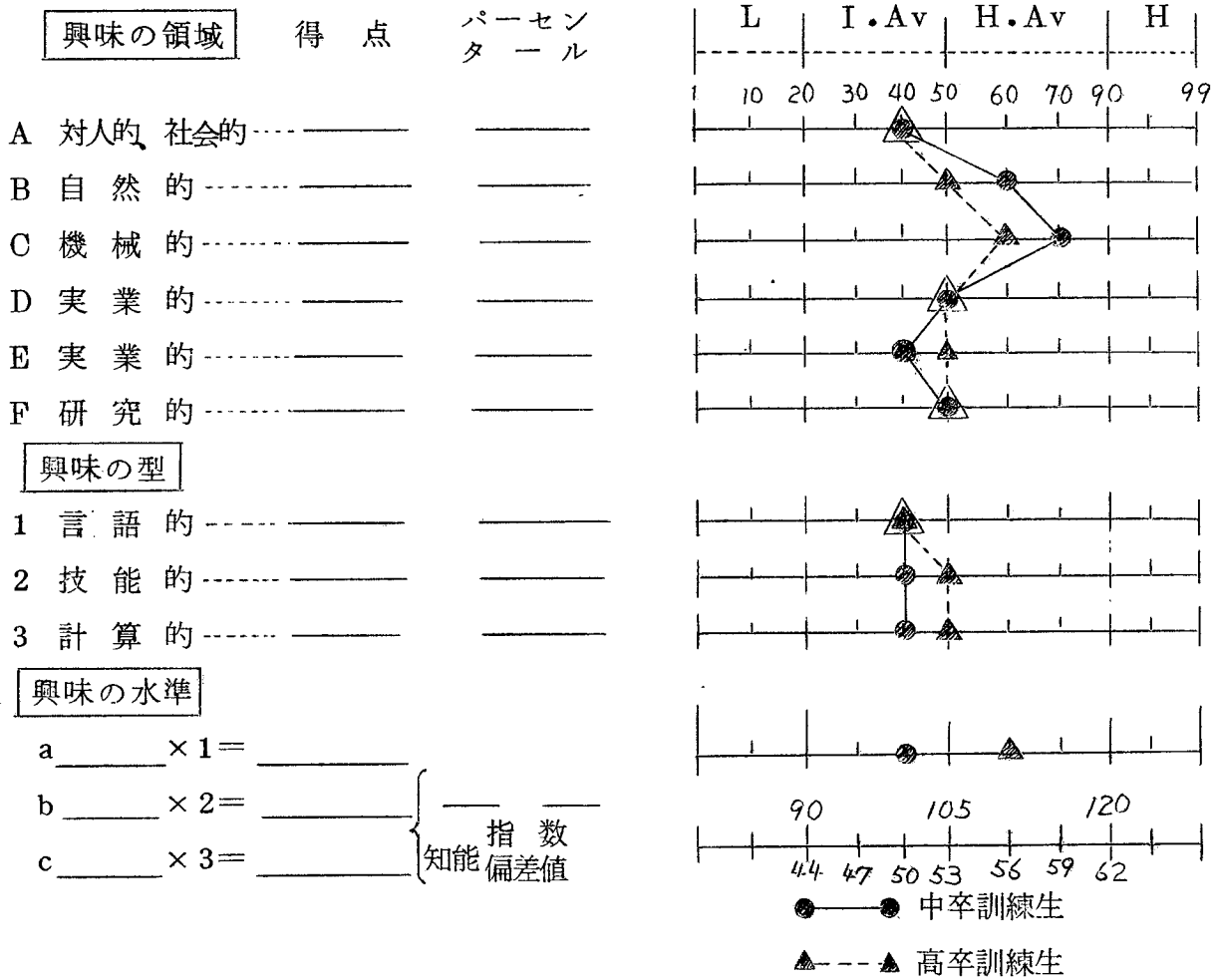
第20表 訓練校別 職業興味パーセンタイル

訓練校		01	02	03	04	05	06	07	08	09	20	11	12	13	14	15	TOTAL
興味 の 領域	A対人的 社会的	30	30	40	40	30	40	40	40	(60)	40	40	40	40	40	30	40
	B自然的	60	60	60	60	60	60	60	60	50	50	60	60	60	60	(70)	60
	C機械的	60	70	60	70	70	60	70	70	70	60	60	60	60	70	(80)	60
	D実業的	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	40	50	50
	E芸術的	50	50	X30	40	40	50	30	30	30	30	50	50	30	40	30	30
	F研究的	50	50	50	40	50	50	50	50	50	40	50	50	50	50	50	50
型	1言語的	40	X30	40	40	40	40	40	40	(50)	40	40	40	X30	40	30	40
	2技能的	40	40	40	40	(50)	40	40	40	40	40	40	40	(50)	40	40	40
	3計算的	40	40	50	40	40	50	50	40	40	40	40	40	50	50	50	40
水準	L	40	40	40	X30	(50)	(50)	X30	40	40	(50)	40	40	(50)	40	40	40

第21表 職種別 職業興味パーセンタイル

職種		01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
		電 子	電 気	機 械	仕 上	精 機	自 動 車	板 金	溶 接	鋳 物	配 管	木 工	塗 装	ブ ロ ック	製 図	織 機	フ ラ イ ス	銅 管	製 罐	第 二 自 動 車	電 工	建 築
領 域	A対人的 社会的	30	30	30	40	30	30	50	50	40	30	30	(60)	40	(60)	40	50	(60)	50	30	40	50
	B自然的	60	60	60	60	50	60	60	60	70	50	70	(60)	(70)	X40	50	60	(70)	50	60	60	(80)
	C機械的	60	60	(80)	70	70	70	60	60	60	(80)	60	X40	60	60	70	70	X40	60	70	40	60
	D実業的	X40	50	50	50	50	50	50	50	50	60	50	50	50	50	50	50	(70)	50	50	60	X40
	E芸術的	50	40	30	30	50	50	40	40	30	50	50	50	30	50	50	30	30	30	50	60	50
	F研究的	(70)	50	50	50	50	50	40	50	50	40	40	40	50	50	50	40	50	50	40	50	30
型	1言語的	30	40	40	30	40	30	(50)	40	40	40	40	(50)	40	40	(50)	40	(50)	(50)	30	50	40
	2技能的	50	40	50	40	40	40	40	40	X30	50	40	X30	X30	60	50	40	X30	40	50	X20	50
	3計算的	50	40	50	40	40	50	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	50	40	40	X20	30
水準	L	50	40	40	40	50	40	40	40	X30	50	X30	40	50	50	40	50	40	50	40	40	40

第6図 学歴別職業興味プロフィール



第22表 職業興味の年度比較

職業興味 44年、43年比較 (中卒)

		%											
		段階	1	10	20	30	40	50	60	70	80	90	99
		年度											
C 機械的領域	44年	0.2	1.8	4.1	7.5	8.1	7.7	12.9	8.4	15.9	20.6	12.2	
	43年	0.2	0.9	3.2	8.2	8.4	5.4	16.5	8.4	15.3	21.6	11.4	
2 技能的型	44年	0	12.8	9.4	11.7	14.4	14.9	10.9	11.4	7.0	4.1	2.9	
	43年	0	12.5	8.6	13.2	13.0	13.4	13.9	9.7	7.0	5.2	3.1	
L 水準	44年	0.1	8.9	13.2	19.8	10.3	10.7	9.5	9.3	10.1	2.8	3.8	
	43年	1.0	7.7	12.8	19.0	10.5	11.6	11.2	6.7	11.2	2.7	4.5	

第23表 職業興味 C 機械的領域度数分布(中卒)

段階 校名	1	10	20	30	40	50	60	70	80	90	99	30パーセンタイル 以下%
01		5	4	17	16	16	12	9	21	26	13	※ 17.4
02		3	6	2	5	9	16	9	20	29	19	○ 9.3
03			5	4	7	9	18	10	14	19	10	○ 9.4
04			2	3	4	4	6	6	7	17	5	○ 9.3
05		2	1	7	4	4	11	6	13	13	9	14.2
06	1	2	4	4	6	6	6	2	7	9	4	※ 21.6
07	1		5	4	1	1	11	6	9	18	9	15.4
08			4	4	6	5	7	8	7	19	11	11.3
09		2	3	14	10	10	13	5	20	18	22	※ 16.2
10			2	4	6	2	5	3	6	4	7	15.4
11		5	7	12	8	16	28	12	20	28	16	14.8
12		3	7	7	8	8	17	10	16	19	7	※ 16.7
13		1	1	6	5	1	4	4	12	11	7	15.4
14			3	6	7	6	8	15	15	15	8	10.8
15				4	4	4	7	6	22	26	13	○ 8.6
TOTAL	2	23	54	98	107	101	169	111	209	271	160	13.4

第24表 職業興味 2 技能的型 (中卒) (頻数)

校 段階	1	10	20	30	40	50	60	70	80	90	99
01		19	15	23	22	17	18	19	14	6	5
02		15	9	10	14	20	15	13	11	7	4
03		7	13	14	15	14	11	7	7	4	4
04		13	2	5	7	9	5	5	1	3	3
05		6	7	8	7	10	12	8	5	4	3
06		6	5	7	12	7	3	6	3	1	
07		12	7	10	14	9	8	7	7		1
08		4	6	11	10	12	12	6	3	6	
09		22	10	6	23	17	10	16	7		6
10		3	4	8	5	8	4	3	3	1	
11		23	18	24	22	22	15	15	12	6	5
12		15	10	12	17	10	11	11	8	5	3
13		5	3	5	9	7	9	8	2	2	2
14		11	9	6	8	18	5	13	6	4	3
15		10	8	8	7	19	8	15	5	6	
TOTAL	0	171	126	157	192	199	146	152	94	55	39

第25表 職業興味水準(L)の分析 (中卒)

段階 訓練校	1	10	20	30	40	50	60	70	80	90	99	20パーセント 以下%
01		13	22	40	11	12	18	9	17	6	12	28.1
02		12	15	19	15	17	9	9	14	3	4	23.1
03		11	9	19	11	11	5	19	6	2	3	20.8
04	1	6	11	11	4	6	2	5	5	3		※33.3
05		3	11	6	8	8	15	5	11		3	20.0
06		4	7	9	2	6	3	7	8	2	4	21.1
07	1	10	11	12	9	7	8	4	5	1	2	※31.4
08		4	10	14	8	9	2	9	8	3	2	20.2
09		9	15	25	14	12	11	9	10	4	8	20.5
10		5	2	7	4	3	8	3	5		2	○17,0
11		16	24	35	12	21	14	16	15	5	4	24,7
12		7	5	23	9	16	14	14	8	3	2	○11,8
13			10	10	9	4	8	2	6	1	2	19.0
14		11	16	16	7	10	5	5	12	1	1	32.1
15		9	9	19	15	7	6	9	5	4	2	19,6
TOTAL	2	120	177	265	138	143	128	125	135	38	51	22.4

### 第3節 職業興味検査と知能検査との関連について

#### 3-a 知能偏差値と職業興味の「機械的領域」「技能的型」

および「興味の水準」との関連

知能が高くても職業興味が職種に適合していない者もあるだろうし、また、知能は低くても職業興味でよい傾向を示している者もあると考えられる。

このような場合、どちらかといえば、後者の者のほうが、訓練校における最終的な成績がよくなると考えられる。※

このような意味から、知能と職業興味との関連をみたのが第26表である。

知能偏差値がSS 34以下の知能の低い訓練生は中卒で73名であるが、そのうち、職業興味で「適応困難群」に入らない者は45名で61.6%である。

また、知能偏差値がSS 44以下の者について集計をすると、66.7%が職業興味には問題がないのである。

※戸田：ひとりひとりの訓練生を生かす実技指導 技能と技術 1967.2号



つまり、知能が低くても、職業興味でおぎなえると予測される可能性をもつ総訓生が知能の低い者のうち約6割いる。これは中卒訓練生全員の2.0%ではあるが、十分に可能性の開発が期待される。

なお、知能偏差値がSS 55以上の総訓生には職業興味で問題がある者はほとんどいなかった。

### 3-b 知能偏差値と職業興味との関連

この検査では、知能検査の偏差値と職業興味の水準値(L)とが一致している総訓生はその職業に適応が困難であると考えている。

その実態をみると、知能偏差値と職業興味の水準とが一致している総訓生は、中卒訓練生で41.0%、高卒訓練生で37.9%である。これらの訓練生は、まず職業興味の水準では満足している。(第27表参照)

しかし、前述した通り、高卒訓練生に職業興味水準が知能と一致しない者が多い点は注目すべきであろう。

つぎに、反対に、知能偏差値と職業興味の水準とがはなばなしく一致しない者(知能SSと興味Lとの差が40以上の者)は中卒訓練生で10.8%、高卒訓練生で18.6%である。このうちで、自己の知能偏差値よりも高いところに職業興味の水準をおいている者は、中卒訓練生で99名(58.0%)、高卒訓練生34名(71.0%)であり、その反対に、自己の知能偏差値より、低いところに職業興味の水準をおいている者は65名で、42.0%(全員のうちの4.6%)、高卒訓練生で15名、29.0%である。

このように、総訓生において職業興味水準と知能水準とを半数の者は一致させている。

ただし、自己が高い知能をもちながら、職業に対する興味水準をはなはだしく低くおいている総訓生が含まれていることに注目しなければならないだろう。

以上が総訓生の職業興味検査からみた実態である。

知能検査、職業適性検査、および職業興味検査の結果はすべて訓練成績や職場での実務成績との相関から総訓生の全人格的把握が必要とされる。

この報告で、そのための基礎が構築されたとみていただきたい。

第 26 表 知能と職業興味との関連

知能 \ 興味		学歴		%	
		中卒	高卒	中卒	高卒
SS=34以下	C2L以上	45/73	0/0	61.6	/
SS=44以下	C2L以上	285/354	26/32	66.7	81.2
		+73			
SS=65以上	C2L以下	0/19	1/12	0	8.3
SS=55以上	C2L以下	2/	1/	0.7	0.8

274+19 12+117  
(293) (129)

第 27 表 知能偏差値と職業興味水準との関連

+SSL \ -			%	
	中卒	高卒	中卒	高卒
一致または10差	584	104	41.0	37.9
	(1440)	(274)		
+20差以上	756	170		
+30差以上	383	106	26.6	38.6
+40差以上	155	51	10.8	18.6
+50差以上	27	9	1.9	3.2